

ラージボール部会運営規程

1 目的

公益財団法人日本卓球協会制定のラージボール卓球ルールに基づき卓球をレクリエーションとして楽しみ、健康維持・増進と生き甲斐づくりのための生涯スポーツとして幅広く卓球の普及を図ることを目的とする。

2 参加資格

一般社団法人高知県卓球協会に一般で登録している高知県内在住者（オープン大会を除く）。

3 競技規則

公益財団法人日本卓球協会制定の競技大会ルールを適用する。

4 試合中は、公益財団法人日本卓球協会制定のゼッケンを付けなければならない。

5 登録

- 1) クラブ代表者は所属するクラブ員の会員登録を行うこと。（詳細はガイドブックに記載）
- 2) 年度の最初の大会の団体申込時に団体名と構成員名の団体登録（無料）をしなければならない。
ただし、全員が登録団体名と一致する場合は最初の大会の団体申込書で代用できる。

6 申し込み

- 1) ラージボール部会指定の申込書でクラブ（チーム）代表者が期限までに申し込むこと。
- 2) 団体、個人（ダブルス含む）において年代部別及び男・女の申し込み区別は、年度途中で変更して申し込むことは出来ない。
ただし、ダブルスでペア変更が認められた場合はこの限りでない。

7 大会参加料

ガイドブックに記載

8 種目・試合方法

- 1) 種目は団体、男・女ダブルス、混合ダブルス、シングルスとする。（大会毎の種目はガイドブックに記載）
- 2) リーグ戦後順位別（1位、2位・・・）又は複数順位別（上位1位～2位、下位3～4・・・位グループ）トーナメント戦を行う。

9 順位決定

- 1) 予選リーグ戦の後、決勝トーナメント戦によって順位を決定する。
- 2) 参加チーム（団体、ダブルス、シングルス以下同じ）が5チーム以下の場合は決勝リーグで順位を決定する。
- 3) リーグ戦における順位決定は
勝点2点、負点1点、棄権0点の合計点の多い順に順位を決定する。
2者同点の場合は対戦結果で勝ったチームを上位とする。団体戦で3者同点の場合、そのチーム間の勝マッちら率（勝／負マッちら）の高いチームが上位、さらに同じ場合はトスにより決定する。ダブルス戦で3者同点の場合、勝ち点の高いチームが上位、さらに同じ場合は勝ゲーム率（勝／負ゲーム）で決定する。さらに同じ場合は、獲得ポイント／失ポイントで決定する。さらに同じ場合はトスにより決定する。
- 4) トーナメント戦における順位決定は
 - ① 上位グループトーナメント戦の優勝チームを1位、準優勝チームを2位、準決勝戦で優勝チームに負けたチームを3位、準優勝チームに負けたチームを4位とする。
 - ② 下位グループトーナメント戦の決勝戦で勝ったチームを下位1位、負チームを下位2位とし、準決勝戦で下位1位チームに負けたチームを下位3位、下位2位チームに負けたチームを下位4位とする。
以上の方法により順位を決定し最下位の2チームを確定する。

10 昇格・シード

- 1) 各種目とも上位グループトーナメント戦において1位、2位、3位、4位の4チームをシードする。
- 2) 2部以下は1位チーム、2位チームを1ランク昇格させる。
- 3) 決勝リーグ（5チーム）の場合は1位チーム、2位チームを1ランク昇格させる。

- 4) 前回大会に不出場のシードチームが今回出場した場合は同大会の直近のランクに出場させる。
- 5) 複数の降格・不参加チームが生じクラス編成に支障が生じる場合は優勝、準優勝チーム以外に複数昇格させる場合がある。

1 1 降格

- 1) 組合せ役員会以後に棄権したチーム（インフルエンザの場合も適用する）を降格させる。
上記において2チーム以上の降格チームがある場合、チーム編成上決勝リーグ戦下位2チーム、下位トーナメント戦において最下位となった2チームとも降格対象としない場合がある。
- 2) 前回不参加のシードチームが参加のためクラス編成上必要が生じた場合は最下位2チーム以外に追加して降格させる場合がある。
- 3) 降格対象チームが不参加の場合は同次回大会で降格させる。

1 2 クラス編成

- 1) 団体戦はクラス（一般、ローシニア、ミドルシニア）別に1部～4部の各部をそれぞれ8チームに編成する。
- 2) 個人戦、ダブルス戦はクラス（一般、ローシニア、ミドルシニア、ロイヤルシニア、ゴールドシニア）別に1部～4部の各部をそれぞれ16組に編成する。
- 3) 参加チームが5チーム以下の場合は決勝リーグとする。
- 4) 団体戦・個人戦、ダブルス戦への参加数により部別編成は増減することがある。
- 5) 参加チームが団体戦各クラス8チーム、個人戦、ダブルス戦で各クラス16選手（組）に達しない場合は複数部を合わせて競技を行う場合がある。
- 6) 同大会に連続して2回不参加した場合は初出場チームとし、原則として最後部の部に編成する。ただし、力量に著しく格差があると組合せ役員会で認められたチームは役員会の協議により適切な部に編成する。

1 3 組合せ

予選リーグ組合せは同前回大会の結果から折り返し法によりクラス（年代）別、部別に編成する。

- 1) 1部は以下の順に並べ各ブロックの先頭チームから順に割り振って編成する。
 - ① 優勝、準優勝、3位、4位の4チーム。
 - ② 前回不参加のシードチーム
 - ③ 前回出場チーム
 - ④ 前回2部で優勝、準優勝したチーム
- 2) 2部以下は次の順に並べ各ブロックから順に割り振って編成する。
 - ① 上位の部からの降格チーム
 - ② 前回大会でシードされたベスト4の内昇格していないチーム
 - ③ 前回不参加のシードチーム
 - ④ 次に前回出場チーム
 - ⑤ 下部部から昇格したチーム
- 3) 前回大会でシードされたチームが今回不出場の場合は次大会では従前の部で出場する。
- 4) 同クラブチームが同じリーグになった場合や同じリーグで数度戦ったチームがある場合は、役員会で別リーグに極力振り分ける。トーナメントは考慮しない。
- 5) 決勝トーナメントは、均一化された檜の枝番順に順位別、又は複数順位別（上位・下位）の結果に従いトーナメント戦を行う。
- 6) 組合せ役員会は、申し込み締切日の翌週末までに行う。

1 4 試合順序

6チーム編成

- 第1試合 ①—⑥ ②—⑤ ③—④
第2試合 ①—⑤ ④—⑥ ②—③

5チーム編成

- 第1試合 ②—⑤ ③—④ ①—休み
第2試合 ①—⑤ ②—③ ④—休み

第3試合 ①—④ ③—⑤ ②—⑥

第4試合 ①—③ ②—④ ⑤—⑥

第5試合 ①—② ③—⑥ ④—⑤

4 チーム編成

第1試合 ①—④ ②—③

第2試合 ①—③ ②—④

第3試合 ①—② ③—④

第3試合 ①—④ ③—⑤ ②—休み

第4試合 ①—③ ②—④ ⑤—休み

第5試合 ①—② ④—⑤ ③—休み

3 チーム編成

第1試合 ②—③ ①—③ ①—②

15 団体戦

- 1) 団体構成メンバーは同一クラブ員で編成することを原則とする。
硬式で別チーム名で協会登録している構成メンバーが含まれる場合は団体登録を提出する。
登録名称と構成員は高知市長杯前期大会のプログラム上に公表する。
- 2) 高知市長杯中期、後期大会においてはチーム名とその構成メンバーを変更しないこと。
- 3) 団体戦は一般の部、シニアの部、ミドルシニアの部とする。
- 4) 一般の部は構成メンバーに年齢制限を設けない。シニアの部は60歳以上、ミドルシニアの部は70歳以上とする。高年齢の選手が低年齢の部に出場することを認める。
- 5) 団体戦は男・女別編成とし、一般の部「1部～2部」、ローシニアの部「1部～4部」、ミドルシニアの部「1部～3部」の部に分け予戦リーグ後、順位別または複数順位混成の決勝トーナメント戦を行う。
ただし、参加数の変動により部を増減させることがある。
団体戦のクラス別予選リーグ戦の組合せは、各部8チーム編成を原則として行う。
- 6) 1チーム登録者数は5名以内とし、1試合は3～5名で行う。また、男女の混成チームは男子の部に組み入れる。ただし、最初から2名編成の団体申し込みはできない。
やむなく2名で団体戦を戦う場合は、第1試合を不戦敗扱いとする。
- 7) 試合方法は、3～5名の選手が出場できる1S2W方式とし、団体戦のオーダーは
第1試合 ダブルス 第2試合 シングルス 第3試合 ダブルスとし、第1ダブルスに出た選手は第2試合のシングルスには出場できない。第3ダブルスは第1ダブルスと異なる選手同士で組むこと。
3人で対戦する場合 ① (AB) ②C ③ (CA) 又は (CB)
4人で対戦する場合 ① (AB) ②C又はD ③ (CD) 又は (CA. CB. DA. DB)
5人で対戦する場合 ① (AB) ②C ③ (DE)
- 8) 新年度の団体チームランク付けは前年度のチーム名のランクによる。
旧チームの構成メンバーが過半数の新チームは、旧チームのランクを引き継ぐ。
- 9) 出場メンバーに不参加者があり出場できない場合、大会当日までに出場メンバーを同クラブ登録メンバーの他の選手に変更することを認める。ただし、変更メンバーを含め登録は5名までとする。
- 10) 前項においても出場できない場合、下記条件のもとに出場メンバーを変更し、次回大会では元の登録メンバーで出場することを認める。
条件：a 同じクラブで登録されたチーム（例A, B, C）のメンバーである、または団体未登録者で出場団体チームに追加登録した選手である。
b 登録構成員が揃い参加できるチームメンバーを崩してのメンバー変更でない。
c 団体戦1部の場合を除いて、個人ランクがもとのメンバーより高くないこと。
d シニアの部への補充は60歳以上ミドルシニアの部への補充は70歳以上であること。
- 11) メンバー変更後の団体戦のランクは同ランクとする。
- 12) 年度途中で団体メンバーが6名以上となった場合、A・Bチームに分割して適合クラスに、部は従前の部に出場できる。メンバー構成は団体 4)、5)により編成する限り任意とする。
- 13) 試合当日棄権チームのため当該ブロックが2チーム以下になった場合は役員協議の上ブロック構成を変更

することがある。

16 個人戦

- 1) 日本卓球協会に登録したチームより出場すること。
- 2) 個人戦は、種目を一般の部「1部～3部」、ローシニアの部「1部～4部」(60～69歳)、ミドルシニアの部「1部～3部」(70～74歳)、ロイヤルシニアの部「1部～2部」(75～79歳)、ゴールドシニアの部(80歳以上)に分けて予選リーグ戦の後、順位別または複数順位混成の決勝トーナメント戦を行う。ただし、参加数の変動により部を増減させることがある。
- 3) 上記部分けにおいて高年齢者は低年齢の部に、女性が男性の部に参加できる。ただし、参加する部は年度途中では変更しないものとする。
- 4) 会当日当該ブロックが2名以下になった場合は役員協議の上ブロック構成を変更することがある。
- 5) 新年度になり年齢が上がり、クラス変更になった選手の編入する部は従前と同じとする。

17 ダブルス戦(男・女ダブルス、混合ダブルス戦)

- 1) 一般の部、ローシニアの部(合計年齢が120歳以上)、ミドルシニアの部(合計年齢が140歳以上)、ロイヤルシニアの部(合計年齢が150歳以上)、ゴールドシニアの部(合計年齢が160歳以上)に分けて予選リーグ戦の後、順位別または複数順位混成の決勝トーナメントを行う。ただし、参加数の変動により部を増減させることがある。
- 2) ダブルス成績値のないペア(新年度でペアが異なる場合を含む)は役員会で検討のうえ編成する。
- 3) 新年度になり年齢が上がり、クラス変更になったペアの編入する部は従前と同じとする。
- 4) 男子ダブルスに男女および女子同士での出場、又混合ダブルスに女子同士での出場を認める。
これらの編入クラス(部)は男女にかかわらず役員会で決定する。
- 5) ダブルスは原則同一クラブ内の選手で組むこととする。むやみに他のクラブのメンバーと組まないこと。
ただし、同クラブ内に組むペアがない場合に限り認める。
- 6) 年度最初に出場したダブルスペアは1年間、変更しないこと。ただし、次の場合は変更を認める。
 - ① 同クラブ登録の初出場選手との変更
 - ② 同クラブ内2組のダブルスで互いの相手が出場できない場合に限り、出場できる選手同士での変更
 - ③ ②で出場できなかった選手同士の変更
 - ④ 止むを得ない事情(転勤、病気、クラブ変更等)によりペアが出場できない場合
以後の大会は変更後のペアで出場すること。
- 7) 年度途中ペア変更による出場
 - ① 合計年齢に変更がある場合、クラス(一般、ロー、ミドル、ロイヤル、ゴールド)は適合クラスに、部(1部、2部等)は従来の位置に出場すること。
 - ② 変更するペアが初出場の場合、役員会で協議する。
 - ③ 力量に著しく格差があると組合せ役員会で認められた場合は協議により適切な部に編成する。
- 8) 大会当日止むなくペアが出場できない場合、出場可能選手同士のオープン参加として参加を認める。
ただし、リーグ戦のみとする。
- 9) 試合当日棄権のため当該ブロックが2組以下になった場合は役員協議の上ブロック構成を変更することがある。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。